職工團[illegible]の要求案に對する回答文が中川次長より各課長各係長の手を經て職工職夫一同に通告せられたる七日夜の

八幡製鐵所 は依然

こして不穩の内に怠業狀態を繼續せる〻も敢て暴擧に出づる者なく製鐵所構内は勿論八幡市内は四百五十六名の警官隊ミ三十餘名の憲兵隊及び百二十名の消防隊ミを以て一層嚴重に警戒され萬一に備へたり同夜の夜勤々務職工は合計五百二十五名工夫二百八十七名なりしが罷工の主謀者等は巧に警戒線を潜行突破し構内各所の

水道に危險 物を裝

置し又は機關車の進行し來るや軌條上に鐵塊を横たへ或は眞面目なる就業者に對し腕力的脅迫を加へ或は留守宅が危險なりなご言ひ觸らし一般を畏怖せしめたる爲め六千餘名の人夫は直に退去せり之が爲め同夜は切詰めたる入門者の數に異狀を來し忽ち作業に困難を生じたる爲め製鐵所側は直に五十七名の臨時呼出を爲し應急策を講じたるが熔鑛爐

作業の職工 は依然

怠業を繼續し同夜十二時に至り漸く浮腰乍ら就業したるが殊に主要工場なる中央汽罐場又百六十名の職工中僅に十名の就業者あるのみにて他の百五十名は怠[illegible]

出でん事を恐れ正服私服の巡査多數市中を巡囘し殊に勞友會友愛會の行動に就ては嚴重の警戒をなし居りしも何等異狀なく僅に新町尾倉海岸通り等にて勞友會員ミ同志會員の乙三名が衝突し會の

主義に關し 口論を

始めし位にて更に不穩の形勢なく市民も警戒の嚴重なるに驚き平常一時二時迄も騷然たる海岸通りも同夜は十一時頃には寂ごして聲なく一般に門戸を閉して寢に就き非常に寂寞の感を深くせしめたり

就業職工數 昨日の製鐵所

八日晝間の製鐵所作業人員は職工千九百三十二名、人夫七百十八名にして主要工場の職工從業數は熔鑛爐は二百六十六名の定員に二百三名、中央汽罐は百八十八名の定員に百六十二名、舊汽罐場三十六名の定員に三十五名、送風機室五十三名の定員に四十七名、骸炭工場二百六十一名の定員に二百二十四名、洗炭工場百四十六名中百十九名、原料工場四百名中二百十八名なりご云ふ

友愛勞友協議 善後策に就き

七日午後九時勞友友愛兩會の幹事九名は市内豐山公園に會合し善後策に付協議せんごせしも警[illegible]

[illegible]

聯せられたり

熔鑛爐の凝結は嘘 實は修繕中

熔鑛爐二基凝結せしが如く傳ふる者ありしも這は數ケ月前來修繕工事中にして平素六ケ月乃至八ケ月毎に交互に修繕せるものにして時恰も第一第二の熔鑛爐が修繕中なるを今回の罷休にて消火凝結せしが如く誤りしものなりと

天宅事務官來幡 事實取調の爲め

内務省にては安河内知事の報告に接し製鐵所罷工事件を重大視し警保局事務官天宅敬次郎氏を事實取調べの爲め出張せしむる事となり同氏は七日夜十一時三分八幡驛着の列車にて來幡直に八幡警察署の齋藤警察部長を訪ひ事件の原因及び今日迄の經過に就き詳細の聽取をなし續いて野村署長よりも詳しく報告を受け八日午前五時同署に假眠し更に八日は製鐵所に中川次長を訪問し各工場をも巡視し尚一兩日滯在の筈なりと

憲兵增派 五十五名來幡

八幡製鐵所罷工事件に關しては當局にても其[illegible]を頗る重大視

[illegible]嘉穂郡二瀬村中央炭坑は一層嚴戒され居れりこの噂傳へられつゝありしが同坑は昨八日朝迄は表面至つて靜穩なるも同坑職工約八百餘名中には八幡製鐵所より轉勤し來りし者もあり或は昨年十二月同郡[illegible]町に於て擧げられたる

友愛會發會 式の際

同坑職工中會員たりし者もありご傳へられ居れば同坑事務所は勿論所轄飯塚警察署も製鐵所の事變に鑑みて萬一を慮かりたるものゝ如く數日來警官數名は同坑へ出張し人事係取締等ご協[illegible]

[illegible]第一坑、伊岐須第二坑、[illegible]三坑、稲築第四坑の人員を合すれば七千餘名に達する次第なるが之亦頗る平穩なり

附近各工場 頗る靜穩 而し空氣緊張

製鐵所盟休に關し附近なる北九州の各工場に於ても或は職工ごが不穩の態度に出で罷業に加名せざらん事を慮り内心悄々之が鎭撫に努め居れるが各工場にては今の處何等不穩の模樣無きも頗る空氣緊張し居れり

三角同盟崩る

同志會は別途の行動 中川次長との會見顛末報道會

製鐵所の一部職工を以て組織せられし同志會は七日晝間の發會式を終り夜間又も午後八時より劇場[illegible]座にて發會式を開會したり來集せる會員千五百餘名にして盛に氣勢を擧げしが十時、

警官に鎭撫 せられ

事なきを得たるが之れより先き企劃されつゝありし三角同盟は遂に破れて勞友、友愛の提携ごなり同志會は別途の行動を取る事となり反目するに至れり而して七日午後の中川次長この會見顛末報道會は勞友會、友愛會聯合にて昨日午後二時より中本町三丁目友愛會支部、中央區丸山診療所及び勞友會本部に於て開催せられたるが開會ご共に同志會員の徽章を附したる勞友會員浅原健三の實兄浅原鑛三郎、森重哲一の兩人立會演說を求めしも之に應ぜず一時

喧噪を極め しも警

戒の裡に友愛會員藤岡文六氏[illegible]手喝采に迎へられて演壇に立ち「職工諸君は昨日の中川次長の回答に對しては不滿ならんご推察するが子たる職工が親たる長官に對して不滿を抱くが如きは不都合なるも斯して不滿を抱かしむるが如きも又親たるもの丶子に對する親[illegible]を缺く爲めなら[illegible]